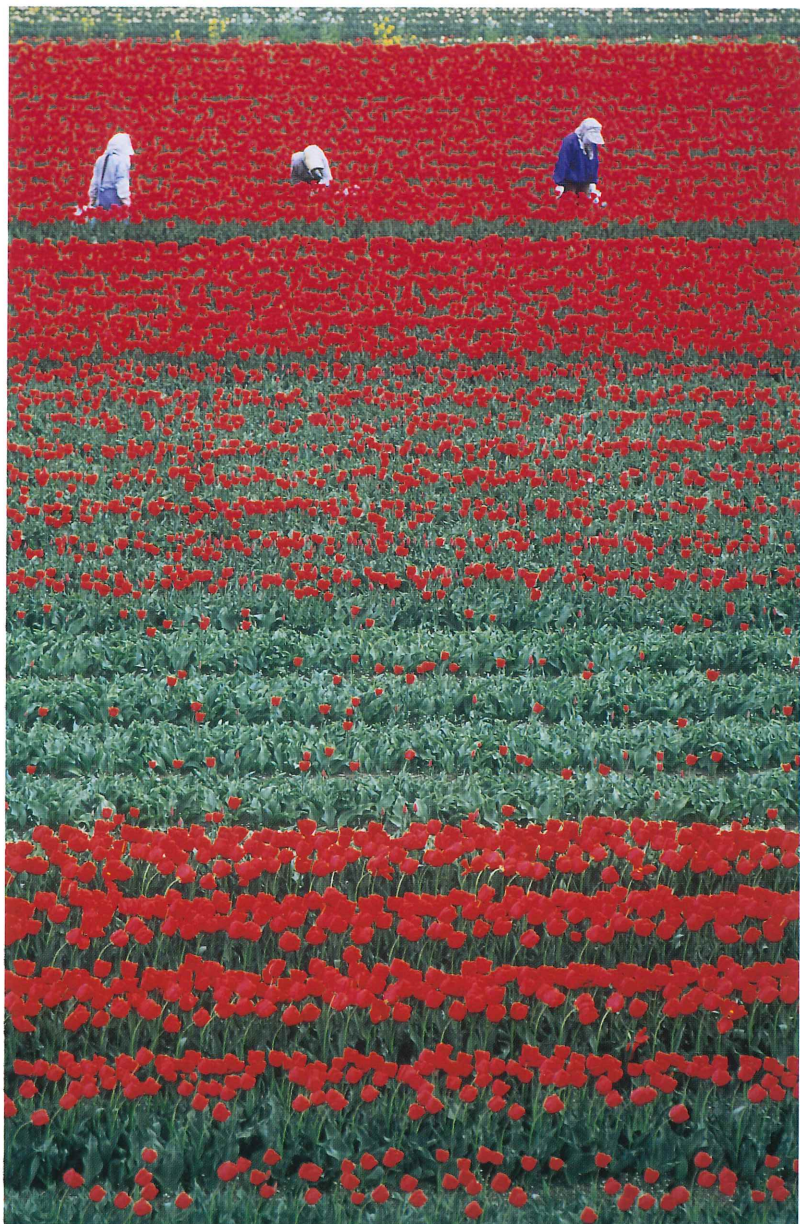




チューリップ 四季だより

『ガーデニング』ということ

園芸研究家 肥土邦彦

「ガーデニング」という言葉が使われるようになってしばらく経ちます。園芸という意味で使われているようです。園芸という言葉の英訳としては、日本ではこれまで「ホルティカルチャー」という言葉が使われていましたが、より古い言葉の「ガーデニング」がマスコミを中心に使われるようになっていきます。従来の園芸という言葉からのイメージとは異なりイギリスなどの海外の園芸を強く意識したものとなっているようです。

園芸には大きく分けて三つの楽しみがあると思います。①植物を育てる楽しみ。②植物を飾る楽しみ。③その植物を観賞する楽しみです。近年のガーデニングでは植物を飾ることが強調され、育てることが軽んじられてしまっているように思われます。

例えば近年のガーデニングブームの中で人気の高い寄せ植えでは、花がすでに咲いている植物を目いっぱいコンテナという容器の中に植えるということが行われています。これでは植えたときは美しく

ても、生長する余地がないので植物はほどなく弱ってしまうことになりそうです。これは雑誌などでこうした寄せ植えを紹介するときに、より豪華に見えるようにデザイナー氏が必要以上に植物を押し込んでしまっていることによるものと思われそうです。本来なら植物を

植え込み、活着し、生長し、見頃になってから写真を撮り、紹介すべきものだと思われるのですが、時間的な余裕がないので植物が生長するということを無視したものが紹介されてしまっているのです。一般の方はこうした事情を知らずにお手本と同じように植えてしまい、失敗してしまうことが多いのです。このように飾ることだけで、育てるということが忘れられてしまっているのです。また使われている植物の組み合わせも不適切なものが見られます。例えば冬の寄せ植えで、寒さにあまり強くない植物とパンジーを組み合わせているものではどこに

飾ったらよいのでしょうか。室内に飾ればパンジーは日照不足と温度ですぐに徒長してしまします。またチューリップなどの球根植物もよく寄せ植えに使われることがありますが、多くの球根植物の花は、豪華で美しいのですが、比較的花期の短いものが多く、細かい根が少ないので移植するときに傷めてしまうことがあります。寄せ植えに適した植物とはいえないと思います。こうした球根植物を寄せ植

えに使うには根を傷めないようにポットごと植え込むのがよいでしょう。

花壇の植え込みでも同じようなことがいえると思います。日本では植物栽培のための場所、花壇のスペースが充分とはいえないことが多いと思います。しかし多くの植物は育ててみたい。そのため多くの植物を植え込んでしまうことがあるようです。日本の気候は、夏は気温が高く、湿度も高く、



▲見事な花壇（ニュージーランド オークランド）



▲ウインターガーデンの花壇 3ヶ月後の状況 (2002.2.23)



▲ニュージーランド・オークランドのウインターガーデン
の植えつけ状況 (2001.11.23)

園芸植物の栽培には適していません。多くの園芸植物は、夏でも比較的冷涼で乾燥しているヨーロッパなどで育成されたものです。こうした植物を栽培するには間隔をしっかりととり風通しよく育てる必要があります。また日本では大きな花付きの株が流通しています。こうした大きな苗を間隔を充分にとらずに植えてしまうと、それ以上大きく育つことができません。弱ってしまうことになり、しっかりと土づくりを行い、若い苗を充分に間隔をとって植え、その場所で生長させれば、よく根も張り、その場の環境にも適応して丈夫に育てることができます。

また植える植物も日本の気候にあったものを選択することが必要だと思えます。ヨーロッパなどの庭をそのまま日本に再現するのは難しいと思います。環境にあった植物を選択し、栽培すれば、それほどの困難もなく美しい庭を作ることとは可能だと思えます。日本の植物は見方を変えたとすばらしいものがたくさんあります。例えばアオキ、ヤツデなどは日本ではあまり重要な植物とされていませんが、改めて見ると実に魅力的な植物ではないでしょうか。植物についての正確な知識を持ち、その性質にあった管理をしていくことが重要でしょう。

【略歴】

ひぐ くらひ



一九四七年六月 埼玉県に生まれる。
一九七三年三月 東京農工大学農学部肥料学専攻卒業。

同年 四月 東京都入庁 経済局農林緑政部農芸緑生課園芸係勤務。

一九七八年四月 東京都農業試験場栽培部勤務。

一九七九年十月 東京都農業試験場江戸川分場勤務。

一九九二年四月 東京都農業試験場八丈園芸技術センター勤務。

一九九四年三月 東京都退職。

同年 四月 園芸専門学校教授(栽培担当)。

一九九七年四月 同校副校長。

一九九九年四月 同校退職。

●主な研究テーマ／「プリムラマラコイデスの育種研究」(江戸小町を作出)、「二年草鉢花・花壇用草花の栽培研究」、「ユリの育種・開花制御に関する研究」、「花卉の流通・消費の研究」

●主な著書／「シクラメン」(共著一九八三加島書店)、「ペランダの鉢花」(一九九〇永岡書店)、「失敗しないペランダ園芸草花」(一九九七家の光)、「NHK趣味の園芸 よくわかる栽培十二ヶ月ユリ」(二〇〇二日本放送出版協会)ほか多数。

●現在／「NHK趣味の園芸」講師(社)園芸文化協会理事、(社)日本家庭園芸普及協会技術顧問、関東学院大学工学部非常勤講師

世界のフラワイイベントカレンダー

近年開催が予定されているチューリップをはじめとするフラワイイベントをご紹介します。

■カナディアンチューリップフェスティバル（カナダ）

開催期間／二〇〇三年五月一日～十九日
開催場所／カナダ・オタワ
メイジャーズヒルパーク他
テーマ／オーストラリア

第五十三回となる今年は「オーストラリア」をテーマに展示が行われます。

日本を紹介するテントも設置され、中では折り紙や書道のワークショップが行われる他、友好交流を行っている当砺波市のチューリップフェアの紹介も行われます。



▲カナディアンチューリップフェスティバル(2002年)



■2003とみちチューリップフェア（日本）

開催期間／二〇〇三年四月二十三日～五月五日
開催場所／富山県・砺波市 砺波チューリップ公園他

昨年に農林登録された農林二十三号「ありさ」と二十四号「ウエディングベール」が、市場より一足早く、チューリップ四季彩館でご覧いただけます。

また、チューリップ四季彩館では特別企画展「チューリップの調べーおわらを彩るー」を開催し、富山県の秋の風物詩として全国的にも有名な八尾の「おわら」の優美な雰囲気を取り映きのチューリップを中心に表現します。



▲砺波チューリップ公園

■キューケンホフ公園

〈オランダ〉

開催期間／

二〇〇三年三月二十一日～五月十八日

開催場所／

オランダ・リッセ

キューケンホフ公園

広大な敷地に六百万本のチューリップをはじめとする球根花が咲き誇ります。夏には、今年で三回目となるZomerhof（夏の庭園）も楽しめます。



▲キューケンホフ公園



▲ポスター（2003年春）

■パノラマチューリップ ランド

〈オランダ〉

開催期間／

二〇〇三年三月二十一日～五月二十五日

開催場所／

オランダ・フォールホウト

花卉球根産業における消費者向けの展示会が開催されます。

■第九回国際花卉球根 シンポジウム〈日本〉

開催時期／

二〇〇四年四月十九日～二十二日

開催場所／

新潟県・新潟市

新潟コンベンションセンター

国際園芸学会花卉ワーキンググループが主催となり、日本の代表的な球根生産地である新潟県において、世界の花卉球根等地中植物の生産や切り花産業に関する研究について、最新の情報が発表されます。

■しずおか国際園芸博覧会 「パシフィックフロラ2004」

〈日本〉

開催時期／二〇〇四年四月八日～十月十二日

開催場所／静岡県・浜松市

浜名湖ガーデンパーク

開催テーマ／花・緑・水

～新たな暮らしの創造～

国際園芸博覧会は、国際的レベルにおける園芸生産者の共通の利益を目的として、一九六〇年オランダでの第一回開催を皮切りに、各地で開催されています。アジアでは、これまでに日本、フィリピン、中国（昆明）、韓国（安眠島）で開催されています。今回は、一九九〇年大阪（花と緑の博覧会）、二〇〇〇年兵庫（淡路花博）に続き、国内で三回目の開催となります。

このしずおか国際園芸博覧会は、花と緑とそれらを育んだ水を介して人と自然の関わりを見つめ直し、様々な発見や創造を経て二十一世紀の人と自然の崇高な調和に挑む舞台となることをめざしています。



▲2000年 兵庫県（淡路花博）

『チューリップ・プリンセス・プレージョンの泉の国1700年』

〈パートⅢ〉

De tulip (オランダ・リッセル市チューリップ博物館発行)より



▲ 'バケット' (第二期)

ていきました。
葉は円形で、
炎状模様は「花
の付け根から
始まり葉の一
番先まで登る層」
でなければなら
りませんでした。
フランス(リ
ール周辺)で
も一六六六年
から栽培が始
まったことが
ドイツのJ.S.
Bachelin氏のリ
ストからも明
らかです。
彼のリスト
には、ブラン
デンブルグ選帝侯がオランダと
フランスの栽培家を結びつける
こととなった百二十六種類の様々
なチューリップが記録されてい
ます。

たが、ハールレムの市場向け栽培家たちは泥炭地を農地にできると判断し、そのような土地を借用又は購入して規模を拡げていきます。しかし、この時期はまだ、栽培規模も商業規模も小さいと考えられます。
フランスの庭園様式は、球根花を大いに利用した方式になっていました。品種ごとの数は多くはないですが、大変珍しい品種ばかりです。収集家のコレクション掲載後のチューリップ本(一七〇九年〜一七三八年)には、四〇〇〇品種のチューリップが掲載されています。
程なくして、チューリップと同じ球根植物であるヒアシンスにも人気が出てきます。

第二期 一六五〇年〜一七〇〇年

今や熱狂的なチューリップの売買は終わり、チューリップがオランダ全域に広まっていきました。海外では、このようにオランダで高まったチューリップ熱について関心が集まりました。その結果、正規の販売が順調に進展していったのです。

栽培の中心地は、引き続きハールレム郊外のハールレム森林公園付近で、その土地の地方新聞の広告によると、その地域で栽培されたチューリップがしばしばオークションにかけられていたと考えられています。

チューリップの流行は変化し、先のがった葉や気まぐれな炎状の模様の花は時代遅れになっ

第三期 一七〇〇年〜一七五〇年

ハールレムの圃場で小規模に始まったチューリップ栽培でし

〈新聞記事より〉
一七四四年 九月二十四日
九月二十六日土曜日、ハールレム以外でも、ベルギー中部にあるブラーバント州三州の農家で、白色・赤色・青色のヒアシンズやいくつかの早咲き、遅咲きチューリップといったとびつきり美しい球根植物がオークシ



ヨンにかけられる予定である。

一七五〇年 四月十四日

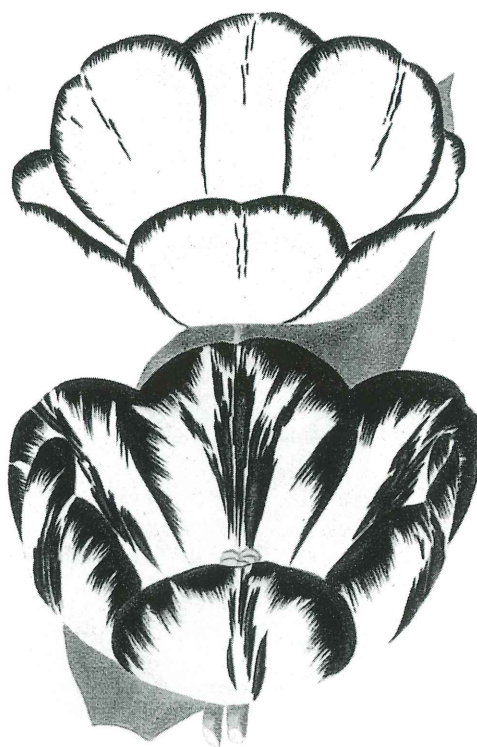
四月二十三日から二十五日まで、白、赤、青のヒアシンスやチューリップを含む美しい植物コレクションが競売にかけられる。これらはA. Stompuyz氏がハールレムに所有する、並木道の両側の畑に植えられた五千球をこえる球根である。

確かにまだ規模は小さいです。三日間の販売日に五千球とは...現在の競売なら一瞬で売れることでしょう。

第四期 一七五〇年〜一八〇〇年

一七八九年に結末を迎える革命で政情に緊迫が続くフランスでさえ、チューリップへの関心は強くありました。今でもリール周辺は栽培の中心地であり、品揃えもかなり特徴的で、ちょうど花期を終えたイギリスやオランダへ輸出しています。

この頃、チューリップの栽培方法を載せた様々な小冊子が出始めます。一番有名なフランスのチューリップは、ルイ十六世で一七八九年初頭、ハールレムのある場所では一球二五〇フラン



▲紫色のチューリップ 'ルイ16世' (第四期)

の値がつけました。

フランスでは政治改革に続き、一般大衆の生活も改善され、繁栄していききました。その他、造園法も変化しました。フランス様式は廃れ、単にまっすぐな四角い枠に植物見本を入れただけではない、自由な枠に豊富な色調のイギリス風庭園が流行し始めました。

これらが要因となり、球根栽培は発展し、チューリップの価格にもかなり刺激を与えました。輸出の発達により、国内販売も扱う「専門」の商人、つまり栽培者と販売者との中間的立場の

商人たちがあちこちに現れ始めました。あらゆる人々が仲買人となってきたため、適当な規則の制定が必要となり、自治体が信頼できる専門的な商人のいる団体を指名するようになりました。

本格的なチューリップ栽培が始まってから五十年後もなお、発達し続けていることは注目すべきことです。

チューリップは観賞用植物としての地位を確立しましたが、発展はゆるやかなものでした。



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

○2003となみチューリップフェア
『散居にひろがる花のまち』

400品種100万のチューリップが
砺波野を彩ります。

- と き：4月23日(水)
～5月5日(祝)
- ところ：砺波チューリップ公園他



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2003年3月発行
財団法人花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100番地の1
TEL 0763-33-7716・FAX 0763-33-0090
URL <http://www.city.tonami.toyama.jp/>
<http://www.tulipfair.or.jp/>